

SIDR

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 10 巻第 36 号

第 36 週 (9月 6日 ~ 9月12日)

発行年月日:平成22年(2010年) 9月16日

発行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

今週の感染症発生動向

腸管出血性大腸菌感染症多発警報の発令(本年度 5回目)

一類～五類全数報告感染症の発生状況(第 36 週)

- ・一類感染症----報告はありません
- ・二類感染症----結核 8名
- ・三類感染症----腸管出血性大腸菌感染症 4名(患者 3名、無症状病原体保有者 1名)
(血清型・毒素型:O157・VT1 1名、O157・VT2 2名、O157・VT1VT2 1名)
- ・四類感染症----レジオネラ症 1名
(病型:肺炎型、年齢:80歳代、推定感染経路:塵埃感染)
- ・五類感染症----ウイルス性肝炎 1名(病型:その他(サイトメガロウイルス感染))
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1名

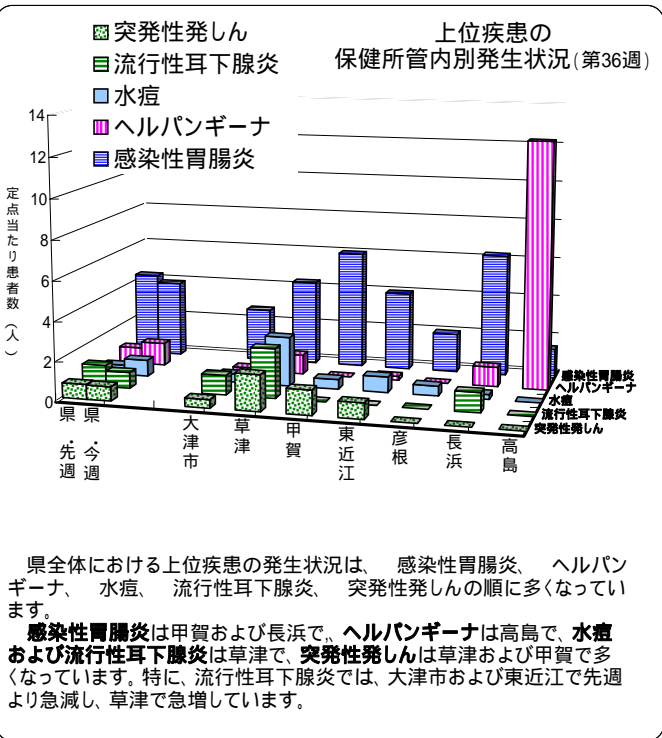
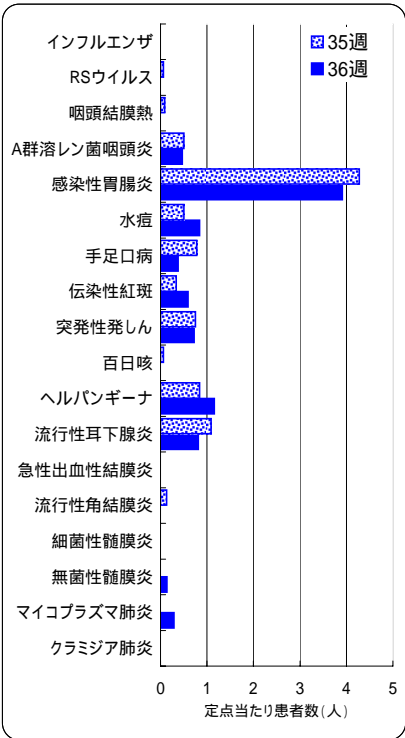
＊先週(第35週)に届出のあった風しん 1名は、届出基準を満たさなかったため取り下げられました。

腸管出血性大腸菌感染症の発生については、県は「滋賀県腸管出血性大腸菌感染症多発警報発令要領」(平成20年8月18日施行)に基づき、9月10日(金)に本年度第4回目の警報(発令基準 に該当)を9月19日まで発令しているところですが、9月14日(火)に再度、基準に達したため、本年度第5回目の警報(発令基準 に該当)を発令(延長)しました。発令期間は、平成22年9月14日(火)から平成22年9月26日(日)までです。 発令基準 :県下全域において、1週間に3人以上患者等が発生した。

第36週(9/6～9/12)における腸管出血性大腸菌感染症の発生状況は、(3)今週の発生状況に示すとおりです。また、今後も引き続き感染予防に対する注意(手洗いを十分にする。 食肉の加熱時には、食品の中心温度を75 1分以上加熱する。 食肉を生で食べないようにする。 患者からの二次感染に気をつける等)が必要です。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(先週との比較、定点当たり患者数)

下記グラフに示す18疾患の患者報告数は、先週(299名)より減少し、287名となっています。今週、増加した疾患は、水痘、伝染性紅斑(リンゴ病)、ヘルパンギーナ等で、減少した疾患は、感染性胃腸炎、手足口病、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)等です。(週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。「感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム」によると、ヘルパンギーナでは、高島保健所管内で、第19週以降(5/10～5/16)連続して警報終息基準値(2.00)を超えています。



県全体における上位疾患の発生状況は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、水痘、流行性耳下腺炎、突発性発しんの順に多くなっています。

感染性胃腸炎は甲賀および長浜で、ヘルパンギーナは高島で、水痘および流行性耳下腺炎は草津で、突発性発しんは草津および甲賀で多くなっています。特に、流行性耳下腺炎では、大津市および東近江で先週より急減し、草津で急増しています。

1. 全数報告感染症(一類～五類)の累積報告数

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感 染 症 類 型	疾 患 名	平成22年 累積報告数		平成21年 累積報告数 ^(※1)		平成20年 累積報告数	
		滋賀 ^(※2) (36週)	全 国 ^(※2) (35 週 注)	滋 賀	全 国 ^(※2)	滋 賀	全 国 ^(※2)
一 類 感 染 症	報告なし	0	0	0	0	0	0
二 類 感 染 症	結核	167	16,967	256	26,932	282	28,419
三 類 感 染 症	コレラ	0	7	1	16	0	45
	細菌性赤痢	2	126	0	180	3	320
	腸管出血性大腸菌感染症	27	2,805	27	3,886	53	4,322
	パラチフス	1	15	0	27	0	27
四 類 感 染 症	E型肝炎	0	47	1	56	0	43
	A型肝炎	3	298	0	115	3	170
	オウム病	1	9	0	21	0	9
	コクシジオイデス症	0	0	0	2	1	2
	デング熱	0	137	0	93	2	104
	マラリア	0	50	0	56	1	56
五 類 感 染 症	レジオネラ症	6	473	8	712	10	893
	アメーバ赤痢	3	560	10	783	10	872
	ウイルス性肝炎	3	132	3	220	5	241
	急性脳炎	0	165	8	526	1	190
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	107	2	141	2	152
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	85	2	105	1	113
	後天性免疫不全症候群	1	969	9	1,449	11	1,568
	ジアルジア症	1	50	0	73	1	75
	梅毒	6	399	3	692	5	839
	破傷風	0	71	3	113	5	123
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	72	0	116	0	80
	風しん	5	70	2	148	2	309
新型インフルエンザ 等感染症	麻しん	3	368	7	739	39	11,015
	新型インフルエンザ(H1N1) ^(※3)	0	0	138	12,639	- ^(※4)	- ^(※4)

注：36週の全国累積報告数については、次週の滋賀県感染症情報（SIDR）に掲載します。

- ※1: 感染症発生動向調査年報暫定数（国立感染症研究所感染症情報センター、平成22年3月）。
※2: 全国の累積報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています（国立感染症研究所感染症情報センター提供資料参照）。
※3: 感染症法の一部改正（平成21年7月24日施行）により届出の対象となった報告数です（届出期間：平成21年7月24日～8月24日）
※4: 感染症法の一部改正以前のため、集計は行っていません。

2. 定点把握の対象となる五類感染症の週別および保健所管内別発生状況

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関（定点）といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです（患者報告数＝定点当たり患者数×定点数）。

(1)疾病別・週別発生状況(平成22年第31～36週、8/2～ 9/12)

定点区分	定 点 数	疾 患 名	定点当たり患者数（ 前週より増加 前週と同じ 前週より減少）											
			31週	32週	33週	34週	35週	36週	週					
			8/2～	8/9～	8/16～	8/23～	8/30～	9/6～	32	33	34	35	36	
インフルエンザ	53	インフルエンザ	0.02	0	0	0	0	0						
小児科	32	RSウイルス感染症	0	0	0.06	0.03	0.06	0						
		咽頭結膜熱（プール熱）	0	0.13	0	0	0.09	0						
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.44	0.38	0.31	0.56	0.50	0.47						
		感染性胃腸炎	2.91	3.06	2.97	4.13	4.28	3.91						
		水痘	0.69	1.06	0.91	0.81	0.50	0.84						
		手足口病	2.88	1.88	1.84	1.09	0.78	0.38						
		伝染性紅斑（リンゴ病）	0.50	0.50	0.44	0.44	0.34	0.59						
		突発性発しん	0.63	0.66	0.66	0.78	0.75	0.72						
		百日咳	0	0	0.06	0.06	0.06	0						
		ヘルパンギーナ	2.88	1.69	1.16	1.00	0.84	1.16						
眼科	8	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.59	1.09	0.91	0.69	1.09	0.81						
		急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
基幹	7	流行性角結膜炎	0.13	0.38	0	0	0.13	0						
		細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
		無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0.14						
		マイコプラズマ肺炎	0.14	0.29	0.43	0	0	0.29						
			クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0	0	0	0	0					

各疾患における6週間の発生状況

増加傾向……感染性胃腸炎、突発性発しん
減少傾向……手足口病、ヘルパンギーナ

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第36週、9/6～9/12)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県全体)		
	県	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島			
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0			
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0			
咽頭結膜熱(プール熱)	0	0	0	0	0	0	0	0			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.47	0	1.50	0.50	0	0	0.50	1.00			
感染性胃腸炎	3.91	2.71	4.33	6.00	4.00	2.00	6.25	1.50			
水痘	0.84	0.43	2.50	0.50	0.80	0.50	0.25	0			
手足口病	0.38	0.29	0.33	0	0.20	0	0.25	3.00			
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.59	0	1.50	0.25	1.20	0.75	0	0			
突発性発しん	0.72	0.43	1.83	1.25	0.80	0	0	0			
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0			
ヘルパンギーナ	1.16	0.14	1.00	0	0.20	0	1.00	12.50			
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.81	1.00	2.50	0	0	0	1.00	0			
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0			
流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0			
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0			
無菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	1.00	0	0	0			
マイコプラズマ肺炎	0.29	0	0	1.00	1.00	0	0	0			
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0			

赤・太字

は警報発生基準値を超えています。

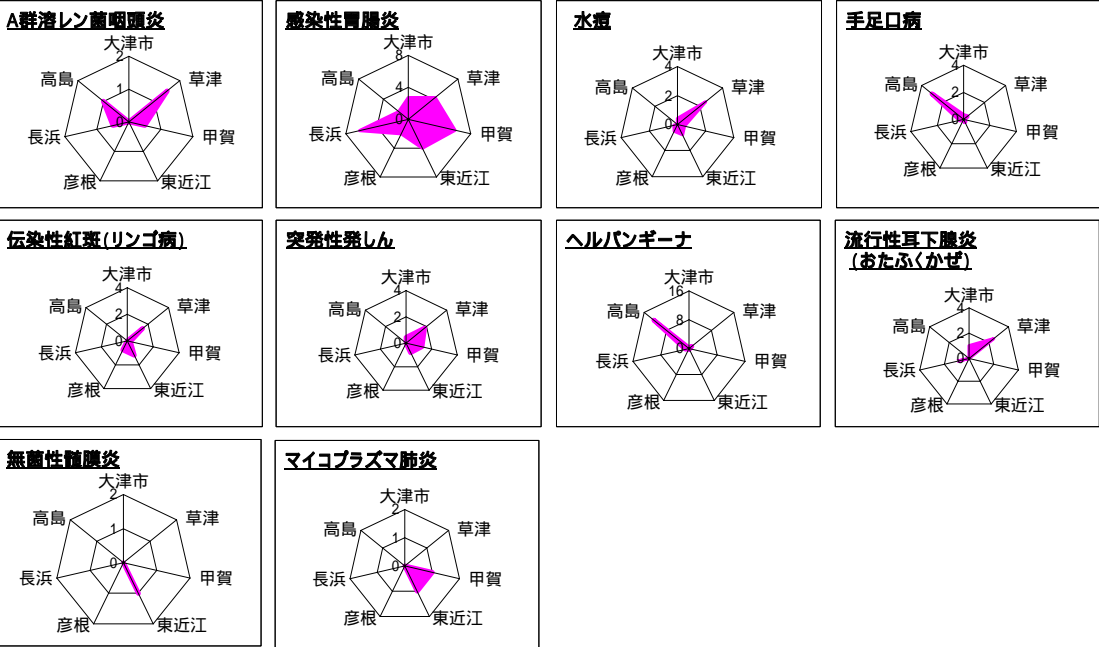
青緑・太字

は注意報発生基準値を超えています。

0246

定点当たり患者数

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)

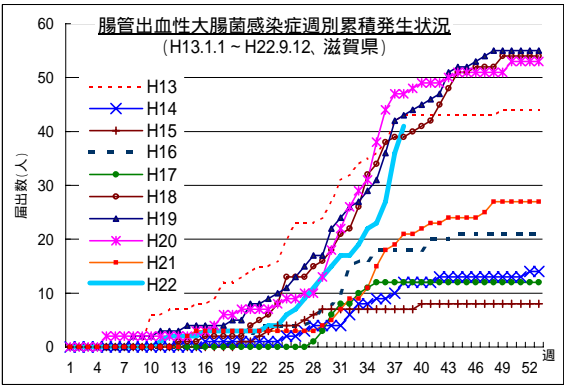


(3)今週の発生状況

[トップページに戻る](#)

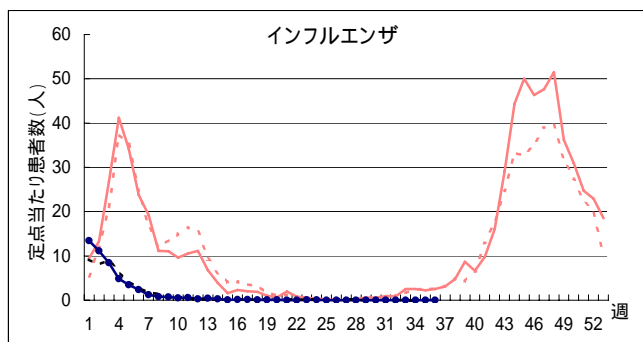
感染性胃腸炎-----県全体では先週より減少していますが、長浜保健所管内で急増しています。
水痘-----草津保健所管内では、先週より急増しています。また、県全体での年齢別発生状況は、2～4歳で多くなっています。
伝染性紅斑-----草津および東近江保健所管内で、やや多くなっています。特に草津では、再び急増しています。

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況(平成13年～平成22年、滋賀県)



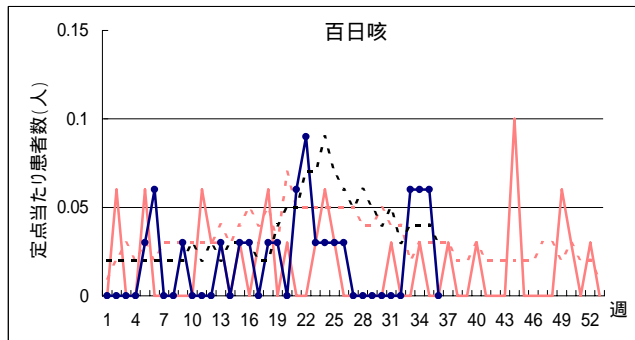
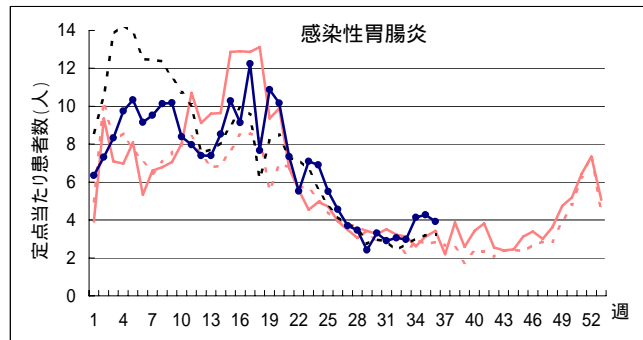
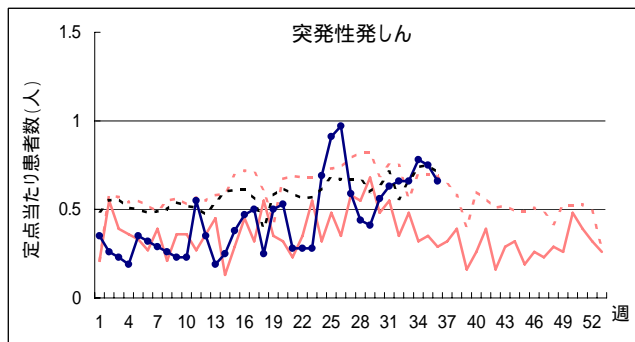
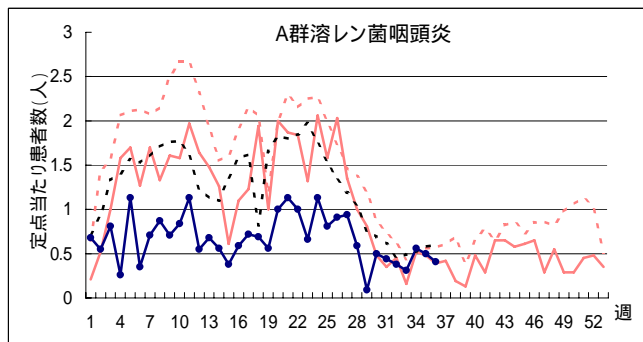
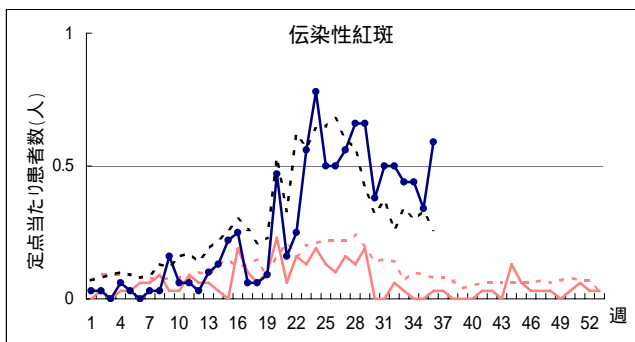
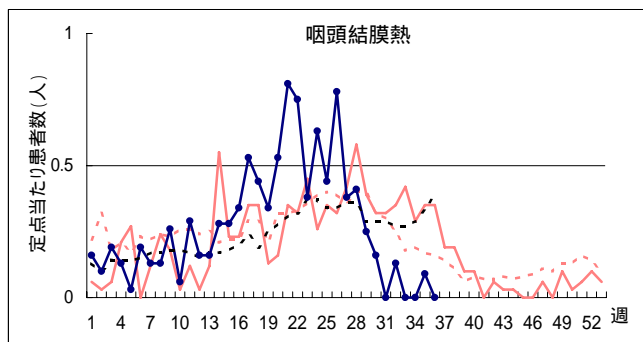
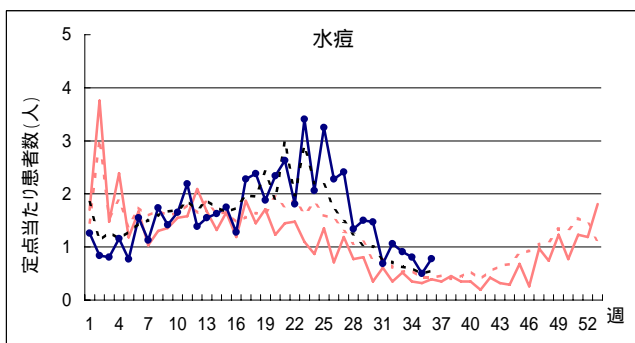
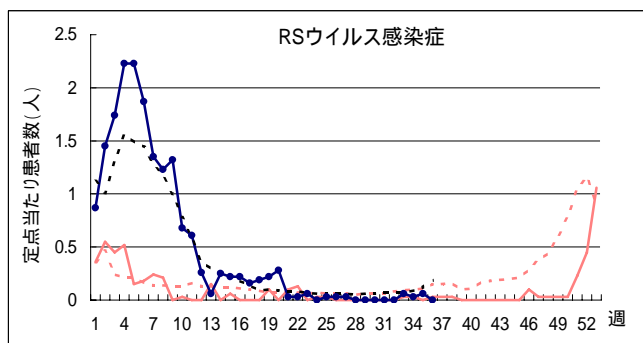
平成22年9月12日現在における届出数27名の内訳は、男性 12名、女性 17名、診断の類型は患者 20名、無症状病原体保有者 7名です。
血清型・毒素型は
O157・VT1 & VT2 18名 (HUS1名を含む)
O157・VT2 4名、O157・VT1 2名、O91・VT1 1名
O111・VT1 & VT2 2名
年齢は0～9歳 10名、10～19歳 4名、20～29歳 6名
30～39歳 1名、40～49歳 3名、50～59歳 1名、70歳以上 2名です。
届出保健所管内別は
大津市 7名、草津 8名、甲賀 0名、東近江 7名、彦根 1名、長浜 3名、高島 1名です。

疾病別定点当たり患者数(平成22年第 1 ～ 36 週、H22.1.4～H22.9.12)

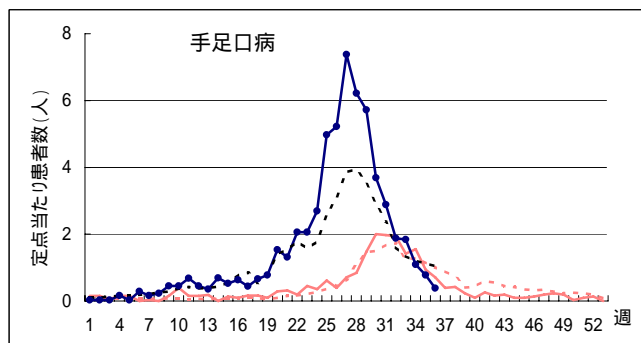


H21 { 滋賀 (solid red line)
全国 (dotted red line)

H22 { 滋賀 (solid blue line with dots)
全国 (dotted blue line)



疾病別定点当たり患者数(平成22年第 1 ～ 36 週、H22.1.4～H22.9.12)



H21 〔 滋賀 ————
 全国
 H22 〔 滋賀 ●———
 全国
 全国

